

会 議 要 旨

会 議 名	平成29年度第2回館山市地域公共交通会議
開 催 日	平成29年10月25日(木)午後1時30分～午後3時30分
開催場所	館山市コミュニティセンター2階集団指導室
出 席 者	[委 員] 16名 ※別紙一覧表のとおり [館山市] 5名(総合政策部長・企画課長・同副課長・同企画係長・同係員)
公開 非公開の別	原則公開
傍聴人数	7名
事務局	1. 開 会
会長	2. 会長あいさつ 会長(館山市田中副市長)より挨拶
会長	3. 委嘱状交付
各委員・事務局	4. 委員紹介・事務局紹介
会長	5. 副会長の指名 田中会長が、平野委員(館山日東バス㈱代表取締役)を副会長に指名した。
会長	6. 議 事 (1) 第1回公共交通会議(書面開催)における「路線バス(洲の崎線)の路線の延長、停留所の新設について」の審議結果について 【結果】 事務局より報告事項として説明した。内容については了承された。 【説明概要】 (事務局) ・この案件の審議結果については、承認として、委員にはすでに文書にて報告済みであり、事務局より、口頭にて案件の顛末について説明した。 ・西岬地区民の買物対策として、JRバスの洲の崎線の一部を渚の駅たてやままで路線延長し、おどや海岸店と渚の駅たてやまに停留所を新設するもの。 ・書面開催で実施したことで、委員から、事前の協議や説明が不十分であるなどの理由から「可否を判断できない」と意見があった。これを受け、バス事業者と事務局にて、意見を出した委員に対し、変更後の詳細ダイヤ等を示し、影響予測等について補足説明及び協議を行い、本会議としては、これをもって承認として議決をした。 【質疑・意見等】 ・特になし。

(2) 路線バスの乗降調査・公共交通座談会の実施結果について

【結果】

事務局より資料①・②により報告事項として説明した。内容については了承された。

【説明概要】

(事務局)

①館山日東バスの豊房線の乗降調査と利用状況調査について資料①-1により説明

- ・路線維持に向けた方策の検討にあたり、その基礎データとするため、豊房線の利用実態と利用者のニーズなど利用状況について調査を行った。
- ・期間は、平成29年7月1日～7日の7日間で、上り、下りの全便を調査。
- ・乗降調査は全便、全利用者を対象とし、乗降場所を記録し、利用実態を調査。
- ・利用状況に関する調査としては、原則、聞き取り調査とし、学生は対象外で、目的や利用頻度などについて調査を行った。
- ・乗降調査の結果として、上下線別に、停留所ごとの利用者数など、利用の実態を説明。
- ・利用状況に関する調査としては、利用者は70歳以上が約60%、目的は通院がトップで30%、利用者全体の約40%が館山駅で他の交通に乗り換えているなどの調査結果。
- ・自由意見として、「便数を多くしてほしい」、「接続を良くしてほしい」、「路線を存続させてほしい」などの意見が出された。

②館山日東バスの千倉線の乗降調査と利用状況調査について資料①-2により説明

- ・目的や調査方法などは、①の豊房線と同じ。期間は、平成29年7月8日～14日の7日間。
- ・乗降調査の結果として、上下線別に、停留所ごとの利用者数など、利用の実態を説明。
- ・利用状況に関する調査としては、利用者は70歳以上が約70%、目的は通院がトップで54%、通院先は、安房地域医療センターが最も多く全体の約70%を占めた。利用実態は医療機関の利用がメインであった。また、利用者全体の36%が館山駅で他の交通に乗り換えているなどの調査結果を説明。
- ・自由意見として、「便数を多くしてほしい」、「接続を良くしてほしい」、「館山駅と安房地域医療センターの間の循環バスがあると便利」などの意見が出された。

③公共交通地区別座談会とアンケート調査の実施結果について資料②により説明

- ・沿線地区住民をターゲットに座談会を実施し、今後の対策検討の基礎データとするため、座談会とアンケート調査を実施した。
- ・座談会の参加対象は、豊房・神余・九重地区の各住民。内容や日時、会場については資料のとおり。
- ・各会場で行われた座談会の状況、意見交換の結果について資料により説明。
- ・豊房会場の意見交換の結果としては、「交通空白地の高齢者をどうするかが重要課題である」という意見のほか、「畑地区にバスを通してほしい」、「スクールバスと一緒に乗れないか」などの意見が出た。
- ・神余会場の意見交換の結果としては、「地区内に循環バスを走らせたらかどうか」、「小型のバスを導入して、経費を下げて便数を増加してほしい」、「フリー乗降にしてほしい」などの意見が出た。
- ・九重会場の意見交換の結果としては、交通空白地の交通手段として、「スクールバスの混乗はできないか」、「デマンドタイプの交通手段はどうか」、「バスの小型化により、コストダウンして便数を増加できないか」などの意見が出た。
- ・座談会と併せて実施したアンケート調査の結果を説明。豊房線と千倉線では地域差があり、通院先では、豊房線は、館山病院が最も多く、その他は駅周辺の医療機関が多数挙げられた。一方、千倉線は、沿線にある安房地域医療センターが挙げられたが、駅周辺の医療機関に対するニーズは少なかった。
- ・問8で、「路線バスがもっと便利になって・・・」という質問で、ほとんど利用しない人が、どうしてほしいのかを集計すると、「バスを小型化して、便数を増加させてほしい」、「地区内を巡回してほしい」という意見が目立った。
- ・将来的に利用するかとの質問では、約60%の人が“利用する”と答え、その理由のほとんどが、「高齢で運転をしなくなる（免許返納する）から」と答えている。
- ・アンケートの自由意見としては、「バスを小型化して、便数を増加、地区内を巡回してほしい」という意見、「路線バス、電車、高速バスなどとの接続を良くしてほしい」という意見が出されたほか、高齢者の

移手段として、料金面などでの負担軽減のほか、タクシーなど路線バス以外での交通手段の活用に対する期待の意見が目立った。

【質疑・意見等】

- ・特になし。

(3) 市内路線バスの現状等について

【結果】

事務局より資料③・④により報告事項として説明した。内容については了承された。

【説明概要】

(事務局)

- ・市内路線バスの現状等について資料③により説明。グラフにて、館山市が3つの路線に出している補助金額の推移、市内路線バスの輸送人員の推移を説明。輸送人員が減少する中、補助金額は増加傾向にあり、補助金額と輸送人員が反比例の関係にあり、将来的に利用者が更に減少することがあれば、行政からの補助金額が更に増え、厳しい財政状況となることが予想される。
- ・各バス路線の輸送人員の推移についてグラフにて説明。過去6年分を見ると、南房州本線及び豊房線を除き、減少傾向が続いている。千倉線については、平成27年度途中で便数が減少したことから、平成28年度の輸送人員が2万人を割り込んだと考えられる。
- ・館山市の将来人口推計をグラフにより説明。老年人口は増え続けている、2020年をピークに減少に転じる。他方、現役世代といわれる生産年齢人口については現在から将来にかけて、減少を続けると予想される。高齢者人口も減少するが、それを支える現役世代の減少幅の方が大きいいため、通院や買い物を若い世代の家族に頼るといことが難しくなる可能性がある。今後、高齢者の移手段の確保がますます重要になる。
- ・バス事業者、タクシー事業者、市で実施している運転免許返納者に対する優遇制度について説明。館山警察署管内の免許返納件数は年々増加しており、年齢が上がるにつれ、免許保有者数が減っていく傾向が見られる。65歳から69歳、70歳から74歳までの年代の免許保有率は7割～8割程度であるのに対し、75歳以上の免許保有者数は、75歳以上人口の34%にとどまっており、この世代の人にとって、公共交通は移動のための重要な手段になってくると予想できる。
- ・高速バスの輸送人員の推移についてグラフにより説明。千葉・横浜行きは横ばいであるが、新宿ゆきを含む東京方面の乗客数は増加している。
- ・公共交通空白地における人口動態について資料④により説明。バス停から500m以上離れている市内の公共交通空白地にある地区を対象として、高齢者がどれくらいいるのかという点を中心に分析を行った。北条地区を除き、多くの地区で、市の平均よりも高齢化率が進んでおり、特に、岡田・出野尾区、畑・神余地区については、高齢化率が50%近くに達している。また、畑・神余地区や、坂足・小沼・坂井区では、15歳から64歳人口よりも65歳以上人口の割合が高く、現役世代が高齢者の面倒を見ることが困難になると考えられる。今回対象とした地区については、65歳以上の割合が市の平均と比べても高い場所が多く、将来的に移手段に困る市民が増加すると予想される。このことから、公共交通網の再検討をはじめ、高齢者が自動車に頼らず安全・安心に外出できる仕組みの整備が重要になると考えている。

【質疑・意見等】

(委員A)

- ・資料③の市内路線バスの路線ごとのバス輸送人員について、JRバス関東の洲の崎線の輸送人員の増減の理由を教えてください。

⇒ (今井委員 (代理: 楠本課長))

高速バスで一般路線に乗り入れている分については、高速バス路線の方で集計。算出方法が変わったことで統計値に大きな変動が出たもの。ただし、減少傾向にあることは間違いはない。

(4) 館山市の公共交通の今後のあり方について

【結果】

事務局より資料⑤により、検討事項として、館山市の公共交通の課題について説明し、委員から意見や提案を徴した。出された意見や提案については「市の公共交通の課題解決に向けた方向性」としてまとめ、次回以降の会議において協議していくこととした。

【説明概要】

(事務局)

- ・会議資料の資料⑤により説明。市の公共交通の現状と課題についてまとめた。これらを基に、公共交通の課題の解決に向けた方向性を検討。委員から、課題解決のご意見やご提案など出してもらいたい。
- ・課題①「利用が低迷している路線バス等の運行の維持・改善」
現時点では路線バスを利用していなくても、将来的に高齢になったら、路線バスが必要になるから、路線バスをなくさないでほしいという意見が非常に多かった。いかにして、路線バスをはじめとした公共交通の利便性を向上させ、利用者を確保するとともに、運行の効率化を図り、路線バス等の公共交通を、将来に向け維持・改善していくかの抜本的な対策が必要になる。
- ・課題②「高齢者等の移動手段確保、高齢者等の利用しやすい運行への見直し」
高齢化率は 37.5%、運転免許返納者数も年々増加傾向にある。今は、家族に送迎してもらっているという高齢者の方々は多いが、若手の人口も減少し、一人暮らしの高齢者世帯も増加していく。他に頼ることのできない高齢者などの、通院などの利用目的、外出パターンに見合った移動手段の提供が必要になる。ノンステップ車や運賃助成、ドアツードアなど体が不自由でも利用しやすい交通サービスへの見直しなどが必要。
- ・課題③「利用者のニーズに見合った公共交通サービスの向上」
アンケート調査などでは、便数を増やして欲しいという意見は非常に多かった。しかしながら、単純に便数を増やせばよいというものではなく、潜在的需要を掘り起こすような、利便性の向上がなければ、便数を増やしても、利用者が増えず、コストだけがかさむ。
利便性を向上させるとともに、新たな路線バスユーザーを確保していくため、便数確保だけでなく、利用しやすく分かりやすいダイヤ設定、乗り継ぎの改善、循環バス、フリー乗降の検討など、限られた交通資源や人材により、ニーズに見合ったサービス向上を図る必要がある。
- ・課題④「公共交通空白地における移動手段の確保」
公共交通空白地は地域により状況は様々。既存の公共交通への影響を考えつつ、地域住民のニーズを深く調査し、地域の事情に応じた交通対策が必要。デマンド交通等の新たな公共交通システムの導入については、地域・対象者・利用方法・料金など慎重に調査し検討する必要がある。
- ・課題⑤「観光客等による利用促進、移動の利便性や回遊性の向上」
館山市の観光地という優位性を活かし、地域外から新たな利用客を取り込み、公共交通の活性化を図ることも重要。車がなくても周遊できるように、観光と連携した交通マップ、ダイヤ案内などにより、バスやタクシーの2次交通として利用を促進することで、公共交通の活性化を図っていく必要がある。
- ・課題⑥「送迎交通（スクールバス、病院、ホテル、教習所等）と公共交通との効率化検討」
スクールバス、病院送迎など、送迎交通が多様に実施されている。こうした送迎交通を公共交通に利用できないかなどの意見がある。送迎交通利用の代表的な例として、スクールバスの混乗などが挙げられるが、既存の公共交通とのバランスも考慮したうえで対象者や利用の範囲など慎重に検討する必要がある。
- ・課題⑦「総合的な公共交通利用促進策の検討」
駅を中心にした放射線状のバス路線、高速バスの発着、複数のタクシー事業者の拠点があるなど、南房総のなかでは比較的交通網が発達している地域。こうした多様な公共交通の総合的な利用促進策を検討し、公共交通ネットワークを活性化していくことが重要。
国が進めている「地域公共交通網形成計画」制度の活用検討、また、乗り継ぎ案内情報の周知や観光利用

の促進など交通関連事業者が連携した相互利用促進策の検討など、地域にとって、望ましい公共交通ネットワークの面的な形成をすすめていく必要がある。

【質疑・意見等】

(委員A)

- ・課題の②に対する意見。高齢者に対するドアツードアなどの利便性については、公共交通は“自動車”に敵わない。また、“便数を増やしてほしい”など意見として出てくるが、需要規模からみたら不可能で現実的な対応は無理。さらに、タクシーとかをデマンドで対応するという考えもあるが難しい。公共交通は自動車よりインセンティブが高くなければ利用しない。自動車利用に対する何らかの規制が必要。商店や公共施設にしても駐車場は無料で提供しており、バス利用に対するインセンティブがないのが現状。具体例として、すぐに出来ることではないと思うが、まずは、公共施設の駐車場を有料にすることで、バスで来ることにに対してインセンティブを与えることが考えられる。自動車が必要な体の不自由な方などは、駐車場を無料にするなどの対応をすればよいと思う。

(委員A)

- ・課題の③に対する意見。この地域のバス路線の特徴としては、乗り継ぎが多いということが調査結果から分かる。そこで、ハブ&スポーク型の仕組みを作り、どこかでターミナル化して、ダイヤを合わせ、乗り継ぎしやすく、運賃の乗り継ぎ割引を設けることなどが考えられる。それぞれの事業者の事情があるので難しいことではあるが、そのような方向が考えられる。

(委員A)

- ・課題の⑤のポイントは“情報化”である。外から来た人はバス停の位置すら分からない。それを教えることが必要。最近、スマホのグーグルマップなどでバス停の位置が分かる。こういったものがなければ、まずバスは乗らない。こうしたことから、情報化を徹底することが必要。けして高いハードルでないし、国も進めている。バス情報を決められたフォーマットで提供するとグーグルマップに取り入れてくれる。来訪者はかなり使いやすくなる。同様に、タクシー事業者も情報をうまく活用することが必要。

(委員A)

- ・課題の⑥に対する意見。座談会の意見でも挙げられていたが、高速バスの一般路線バスとしての乗降が、一部で既に導入されているが、これを増やすことで、利用者にとっても、バス事業者にとってもメリットになると思う。
貨客混載は真剣に考える必要がある。難しい課題ではあるが全国的に既に始まっている。トラックに人を乗せるのは難しいが、タクシーやバスに荷物を載せるのは比較的容易である。

(委員A)

- ・課題⑦に対する意見。総合的なビジョンは作る必要がある。様々な調整をしていくにあたり、ガバナンスを効かせるには、総合的なビジョンは必要である。

(委員B)

- ・地域公共交通網形成計画の策定の見通しはあるのか。

⇒ (事務局)

具体的なことは未定。計画の策定については今後検討していく。

(委員C)

- ・“ライドシェア”については、座談会などにおいて、地域の意見としてあったか。

⇒ (事務局)

特に、意見等はなかった。

事務局	<p>(5) その他</p> <p>【平野副会長（館山日東バス）より情報提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南総里見号のダイヤ改正等を行う。現在認可申請中で11月18日開始。 ・需要の多い6時台上りを10～15分間隔に、17時・18時台下りを20分間隔にする。 ・これまで、起終点が、「千葉中央駅」または「千葉みなと駅」であったが、全便を「千葉みなと駅」にする。また、「白浜・野島崎」を「安房白浜駅」に付け替える。 ・運賃の見直しも併せて行う。100円～150円の値上げ。安房では一律100円の値上げ。ICカード利用では150円の割引になる。ICカード利用で現行よりも得になる。 ・定期券の割引率がアップになる。割引率の向上と、新たに通学定期の設定を行った。回数券よりも得になる。回数券は今年で販売終了する。 ・定住促進に寄与できればと考えている。 <p>7. 閉会</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
-----	--

平成29年度第2回館山市地域公共交通会議 出席委員一覧

(敬称略)

No.	設置要綱第3条関係	所属団体・役職名	氏名	出欠
1	(1)館山市長又はその指名する者	館山市副市長	田中 豊	出席
2	(2)国土交通省関東運輸局長(千葉運輸支局長)又はその指名する者	国土交通省関東運輸局千葉運輸支局 首席運輸企画専門官	中村 光秀	欠席
3	(3)千葉県知事又はその指名する者	千葉県総合企画部交通計画課 企画調整班 主事	稲葉 晋平	出席
4	(4)東日本旅客鉄道株式会社千葉支社長又はその指名する者	東日本旅客鉄道株式会社 館山駅 駅長	佐藤 淳	出席 (代理:助役 福原直樹)
5	(5)一般乗合旅客自動車運送業者	ジェイアールバス関東株式会社 館山支店長	今井 信彰	出席 (代理:課長 楠本晋平)
6		館山日東バス株式会社 代表取締役	平野 直	出席
7	(6)一般乗用旅客自動車運送事業者	鏡浦自動車株式会社 代表取締役	河野 義輔	出席
8		館山中央交通株式会社 代表取締役	望月 英樹	出席
9		南房タクシー株式会社 総務課長	鈴木 義和	出席 (代理:総務係長 川名隆文)
10	(7)社団法人千葉県バス協会長又はその指名する者	一般社団法人千葉県バス協会 専務理事	花崎 幸一	欠席
11	(8)住民又は利用者	豊房神余地区区長会 会長	小原 敏道	出席 (代理:副会長 鈴木敏雄)
12		西岬地区区長会 会長	鈴木 信雄	出席
13		九重地区区長会 会長	長谷川 進	出席
14		那古地区連合町内会 会長	森 浅治郎	出席
15	(9)一般旅客自動車運送事業者の事業用自動車の運転者が組織する団体を代表する者	東日本旅客鉄道労働組合 千葉地方本部木更津支部バス館山分会 執行委員長	石井 健太郎	欠席
16	(10)道路管理者、千葉県警察、学識経験者その他交通会議が必要と認める者	JR東日本レンタリース株式会社 房総ブロック長・館山営業所長	石井 克己	出席
17		株式会社トヨタレンタリース千葉 館山駅西口店 店長	千秋 麻里	欠席
18		日本大学理工学部 交通システム工学科教授	轟 朝幸	出席
19		千葉県館山警察署 交通課長	中村 信貴	欠席
20		千葉県安房土木事務所 調整課長	成田 昭也	出席 (代理:次長 田中武彦)
21		南房総市総務部企画財政課長	福原 正和	出席